

大館の歴史 ~旧石器・縄文~

大館に人が住み始めたのは、約 20,000 年前の後期旧石器時代のことです。

以降、断絶期^{だんぜつき}をはさみながらも人々は住み続け、280 か所をこえる遺跡が残されています。

あるときは北海道地方の文化を取り込み、また、時には中央政府^{きょううい}の脅威と向き合いながらも、ふるさと大館に暮らしてきました。



大形石刃（オオガタセキジン）
遺跡名：松木高館平 BC20000 年~13000 年
石刃技法によって作られたナイフ形。
【大館市指定文化財】

年代	時代	土器型式	おもな遺跡
16000 年前	旧石器時代		松木高館平遺跡
10000 年前	縄文時代 早期	隆線文系土器 爪形文系 / 円孔文系土器 日計式土器 白浜式土器 赤御堂式土器 貝殻文土器群	高ヶ長根Ⅲ・Ⅳ遺跡 根下戸道下遺跡
7000 年前	縄文時代 前期	表館式土器 円筒土器群 深郷田式土器 円筒下層 a 式土器 円筒下層 b 式土器 円筒下層 c 式土器 円筒下層 d 式土器 円筒上層 a 式土器 円筒上層 b 式土器 円筒上層 c 式土器 円筒上層 d 式土器 円筒上層 e 式土器	茂屋下岱遺跡 山館上ノ山遺跡 池内遺跡 芋堀沢遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
5000 年前	縄文時代 中期	榎林式土器 最花式土器 大木 10 式土器 十腰内式土器群 十腰内 I 式土器 十腰内 II 式土器 十腰内 III 式土器 十腰内 IV 式土器 十腰内 V 式土器 大洞式土器群 大洞 B 式土器 大洞 BC 式土器 大洞 C1 式土器 大洞 C2 式土器 大洞 A 式土器 大洞 A' 式土器	福館橋野遺跡 鳴滝遺跡 菅谷地遺跡 塚ノ下遺跡 萩ノ台 II 遺跡 寒沢遺跡 堂ノ沢遺跡 家ノ後遺跡 矢石館遺跡
4000 年前	縄文時代 後期		
3000 年前	縄文時代 晩期		
2300 年前	弥生時代	砂沢式土器 田舎館式土器 天王山式土器 後北 C2・D 式土器	諏訪台遺跡 粕田遺跡 釈迦池遺跡 片山館口遺跡
西暦 0 年	古墳時代	土師器・須恵器	山王台遺跡 大館野遺跡 上野遺跡
300 年	古代	擦文土器	矢立庵寺跡 熊釣館跡
600 年	中世	珠洲 白磁・青磁 越前・堂滑 瀬戸・美濃	二井田館跡
1200 年	近世	肥前 瀬戸・美濃	茂木屋敷跡
1600 年			

大館の各時代の遺跡と土器



岩偶（ガングウ）
遺跡名：釈迦内狼穴
縄文時代前期
BC3000 年
23.8×12.6×3.0(cm)



塚ノ下遺跡出土土偶（ツカノシタイセキシツドドグウ）
遺跡名：塚ノ下 縄文時代後期前葉 BC2000 年
身長 24.0cm 肩幅 12.5cm 胴部の厚さ 1.8cm

両眼には天然のアスファルトが充填され、眉が隆起し、眉間には鼻孔^{びこう}があげられている。【秋田県指定文化財】



鋒形石器（ハウケイセッキ）
遺跡名：山館上ノ山
縄文時代前期中葉 BC3000 年
(上)長さ 34.0cm
刃部長さ 9.0cm
刃部最大幅 11.4cm
重量 1311g
(下)長さ 37.6cm
刃部長さ 9.6cm
刃部最大幅 13.2cm
重量 1954g
【秋田県指定文化財】

大館郷土博物館
Odate City Museum

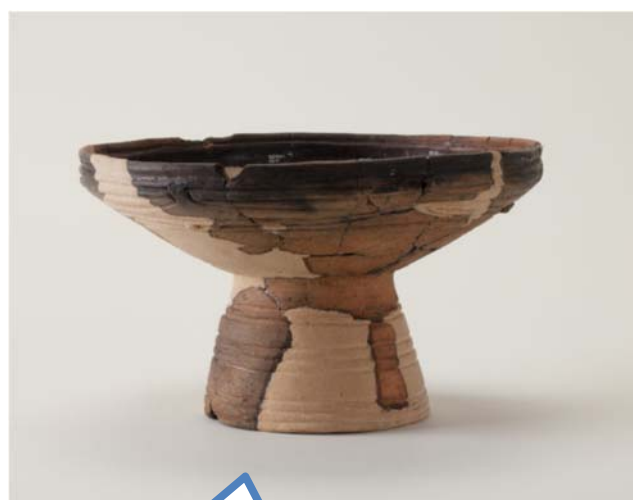
大館の歴史 ～弥生時代～

弥生時代の大館盆地の暮らしをうかがうことができる遺跡に大茂内諏訪台遺跡があります。諏訪台遺跡では、5軒の^{けん たてあな}竪穴住居が見つかり、弥生時代初め頃の土器が出土しました。この他、石器、炭化^{たんか}した粟が出土しましたが、稲作農耕を示す証拠は見つかっていません。

青森県では水田跡が見つっていますが、果たして弥生時代にはコメが持ち込まれていたのでしょうか？



竪穴住居の土器出土状況



高杯（タカツキ）
遺跡名：諏訪台
弥生時代前期
BC300 年
口径 23.3cm
器高 13.8cm
底径 11.5cm
※食物を盛る、高い足
つきの小さな台。



鉢形土器
（ハチガタドキ）
遺跡名：諏訪台
弥生時代前期
BC300 年
口径 14.8cm
器高 10.1cm
底径 9.8cm
※食器の一つ。



壺形土器（ツボガタドキ）
遺跡名：諏訪台
弥生時代前期
BC300 年
口径 5.9cm
器高 14.7cm
胴部 12.9cm
底径 6.4cm
※液体や大切なものの貯
蔵に利用。



深鉢形土器
（フカバチガタドキ）
遺跡名：諏訪台
口径 13.4cm
器高 15.1cm
胴上部 14.8cm（推定）
底径 6.6cm
※主に煮炊^{にた}きに利用。

大館郷土博物館
Odate City Museum

大館の歴史 ～古代～

大館では奈良時代の遺跡が1か所、平安時代の遺跡が約90か所確認されていますが、10世紀以前の遺跡は扇田道下、山王台などの数か所が確認されているだけです。発掘調査すると十和田火山起源の火山灰が堆積していることが分かります。

10世紀を迎えると遺跡の数は急増し、家族も大規模になります。代表的なムラが大館野遺跡で、数十軒の家が立ち並び、鉄を生産し、煮炊きには土師器を、貯蔵には津軽の五所川原産の須恵器を使っていました。



大館野遺跡
製鉄炉跡
せいてつろ

鉄鏃（テツゾク）

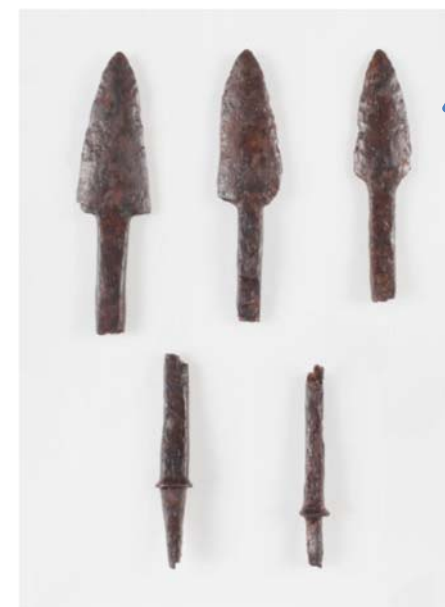
※鉄製の矢じり。

遺跡名：塚ノ下

（大）8.5×2.0×0.5(cm)

（中）8.1×1.9×0.6(cm)

（小）5.1×1.2×0.4(cm)



土師器 小型甕
（ハジキ コガタカメ）
遺跡名：大館野
口径 12.0×12.5(cm)



曲物（マゲモノ）

遺跡名：道目木

平安時代中頃

口径 12.6×8.7(cm)

1100年前（10世紀）の十和田火山、
毛馬内火砕流による火山泥堆積物
で埋没した家屋から出土した。

天然杉^{まさめ}柁目材を使い、胴部は桜皮
（樺）で閉じられ、胴と底は木釘
で止められている。

現在の「大館曲げわっぱ」のルー
ツといえる遺物である。



須恵器 長頸壺
（スエキ チョウケイコ）
遺跡名：大館野
口径 15.3×35.0(cm)
頸に「上」の刻字あり。



鉄製鋤先（テツセイ スキサキ）
※土を耕す道具の先に取り付けた
もの。

遺跡名：餌釣館

16.2×14.6×0.4(cm)



大館郷土博物館
Odate City Museum

大館の歴史 ～中世①～

矢立^{はいじ}廃寺跡

大館市白沢字松原に寺跡があることは古くから知られていて、江戸時代中期の菅江真澄や二階堂道形が記録に残し、地元では藤原^{ふじわら}藤房^{ふさきょう}卿^{いんとん}の隠遁^{いんとん}の地として、また秋田市山内の松原^{ほだじ}補陀寺^{ぼたじ}の旧跡^{きゅうせき}として伝えられてきました。5回の発掘調査によって7棟の建物跡が検出され、掘立柱^{ほったてばしら}による古い建物と、礎石^{そせき}による新しい建物の新旧2時期の建物跡が確認されました。

遺跡からは、かわらけや須恵器系陶器、中国福建省産の白磁碗が出土し12世紀前半～中頃と考えられます。また、便所跡も検出され、排泄^{はいせつ}後の清掃具である籌木^{ちゅうぎ}やウリ、ヤマブドウ、アケビ、ナスなどの未消化の種子が出土しました。



礎石建物跡



便所^{べんじょう}遺構^{いこう}



白磁 四耳壺破片
(ハクジ シジコ ハヘン)
遺跡名：矢立廃寺跡
※「四耳壺」とは、肩部に4つの耳がついている陶磁器類のこと。



便所跡から出たタネ類
遺跡名：矢立廃寺跡
※ウリ、ヤマブドウ、アケビ、ナスなどの未消化の種子。



籌木 (チュウギ)
遺跡名：矢立廃寺跡
※籌木は、排泄後の道具として使用した。



かわらけ皿 遺跡名：矢立廃寺跡
口径 14.7×3.2(cm)
※食器や儀式、祭祀に使われたもの。宴会などでは使い捨ての容器として使用されることもあった。

大館郷土博物館
Odate City Museum

大館の歴史 ～中世②～

大館郷土博物館
Odate City Museum

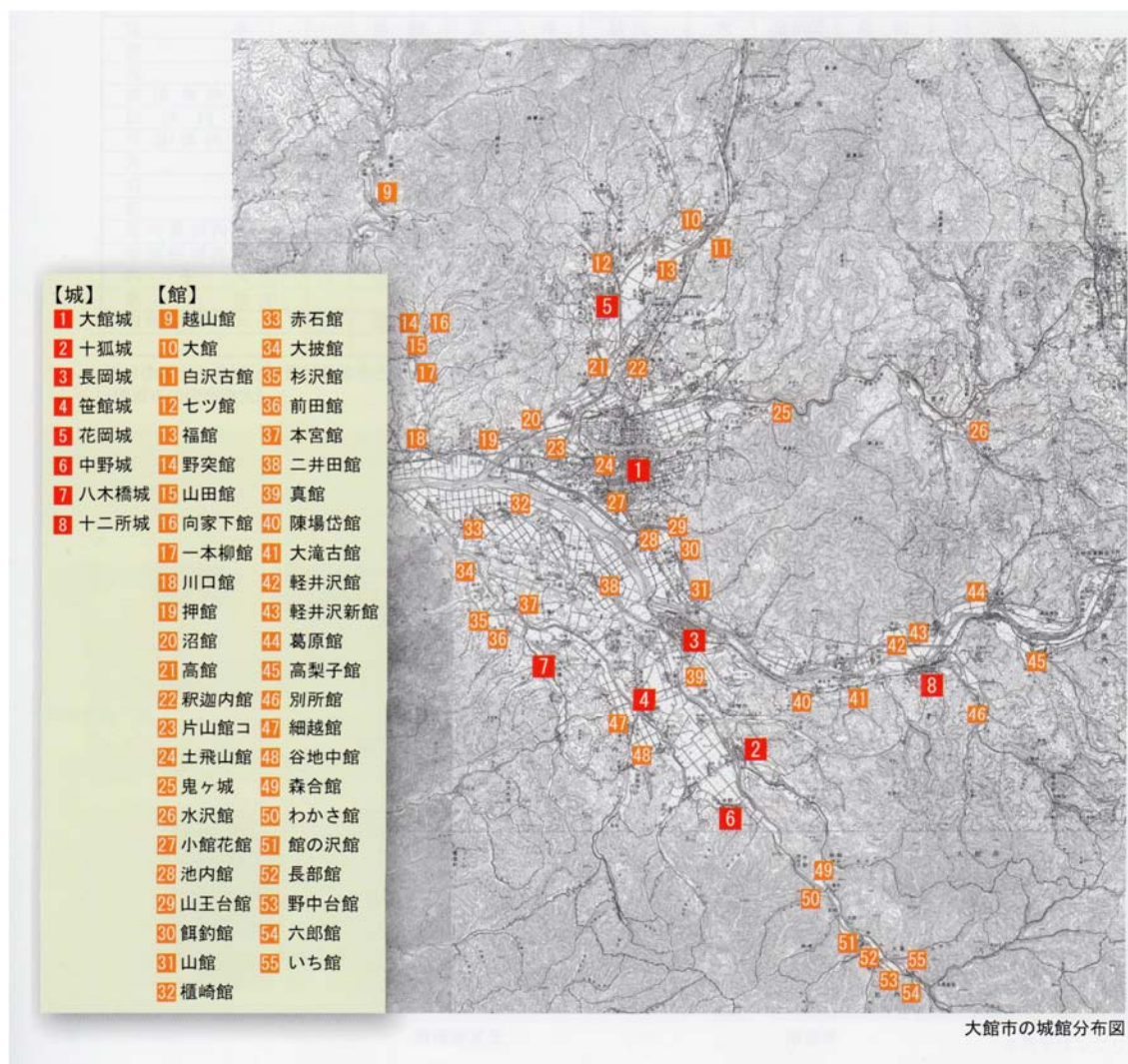
比内地方と浅利氏

中世の大館地方は「ひない」と呼ばれ、^{とっこ}十狐城や長岡城を本拠にした浅利氏が支配していました。浅利氏は比内各地に城館^{じょうかん}を築き家臣を配置しましたが、それは防衛上の他に、城館を拠点に各地の開発を進めて経済的に実力を高めようとする目的がありました。大きな沢の開口部に館をつくり、開墾開発を進め「前田」と呼ばれる広大な田園を作り上げました。

しかし、浅利氏の比内地方経営は城下町づくりもなかなか進められず、戦国大名として発展する^{きばん}基盤はきわめて弱かったようです。

大館市の城館分布図

「比内千町と申習候村数覚」にある比内の村々（大館市内のみ抜粋）



村名	田・畠	家数	現在地	村名	田・畠	家数	現在地
大たて村	田畠	200余	大館	本宮村	田畠	7	本宮
中野村	田畠	80余	比内町中野	山たて村	田畠	7	山
新田村	田畠	70余	二井田	杉さわ村	田	7	杉沢
あふき田村	一切無	60	比内町扇田	新たて村	田	6	比内町新館
志やか内村	田畠	50余	釈迦内	前田村	田	6	比内町前田
さいたて村	田畠	40余	比内町笹館	いたと村	田畠	5	比内町板戸
田子村	田畠	25	比内町遠子	いたさわ	畠	5	板沢
花岡村	田畠	20余	花岡町	山田河口	田畠	5	川口
山田村	田畠	20余	山田	あふ竹	田畠	5	大滝
とっこ村	田畠	20余	比内町独結	長内さわ村	田	3	比内町長内沢
十二所村	田畠	20	十二所	屋中村	田	3	比内町谷地中
ミヤの目	田少畠	20	岩野目か?	おほ志内村	田少	3	大子内
八木橋村	田畠	17	比内町八木橋	岩せ村	畠	2	岩瀬
あつり村	田畠	7	餌釣	見そ内	田畠	2	比内町味噌内
出河村	畠	7	出川				



珠洲焼四耳壺
(スズヤキシジコ)
遺跡名：長森
口径 11.5×24.0(cm)
【大館市指定文化財】

大館の歴史 ～近世①～

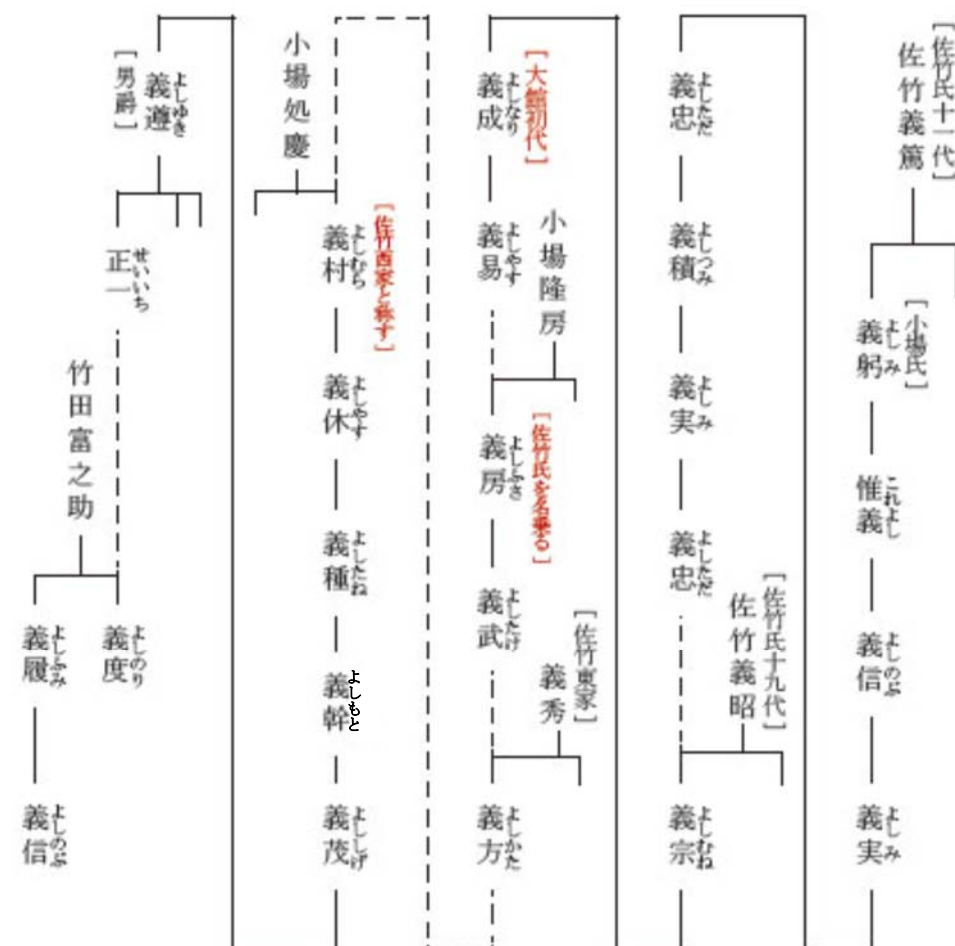
享保 13 年(1728)大館城下絵図
【大館市立中央図書館蔵】



大館佐竹家

慶長 7 年(1602), 徳川家康の命により, 常陸の国(今の茨城県)から秋田へ国替えとなった佐竹義宣さたけよしのぶに従い秋田入りした小場義成おばよしなり(義宣の従兄弟)は, 慶長 15 年(1610)正式に大館城代となりました。義成を初代として, 3 代義房よしふさの時から佐竹姓を名乗るようになり, 6 代義村よしむらの時「西家」の称を許され, 以降「西家」や「お西様」と呼ばれるようになりました。(常陸時代, 本城から見て小場城が西に位置していたため)

大館佐竹家の歴代系図



鸞齋書「六曲一双屏風」
1848 (嘉永元年)【大館市指定文化財】
第 10 代大館城主佐竹義茂 (号鸞齋) は, 幼少の頃より学問を好み, 漢詩をよくし, 能書のうしよの誉れ高い人物だった。この書は 37 歳の時に書かれたもの。



佐竹西家文書
藩主・佐竹義宣から大館城代・小場義成へ宛てた書状。

大館郷土博物館
Odate City Museum

大館の歴史 ～近世②～

十二所茂木氏

佐竹氏の秋田転封により、慶長15年(1610)大館城代には小場義成が任命され、南部藩との境の要衝である十二所城にも城代が置かれました。元和元年(1615)幕府から一国一城令が出されたため、元和6年に十二所城は居館「再来館」として改築され、この時から城代の呼称も「所預」となりました。天和3年(1683)に茂木知恒が所領に任命され、貞享5年(1688)に居館「再来館」は城下町北側の一面に移築されました。茂木氏は以降、明治2年(1869)の版籍奉還による解任までの10代187年間に及び代々十二所所預を務めました。

茂木氏の屋敷跡「再来館」の調査で出土した陶磁器類は主に16世紀から19世紀のもので、特に17世紀代が多く出土しています。産地は肥前（現在の佐賀県と長崎県の一部）産が最も多く、他に京焼・瀬戸美濃産などがあります。また、当時高価であった中国の景德鎮窯・漳州窯産磁器や肥前産の磁器が出土し、茂木氏の社会的地位の高さがうかがえます。そのほか石製品、銭貨（寛永通宝）、木製品（下駄・漆器碗・羽子板・箸）などが出土しました。

十二所士族屋敷絵図
【大館市指定文化財】



木製の下駄



肥前産（碗）



茂木屋敷跡



漳州窯産（皿・鉢の破片）
中国（明代・清代）のもの。
当時の高級品。

大館郷土博物館
Odate City Museum

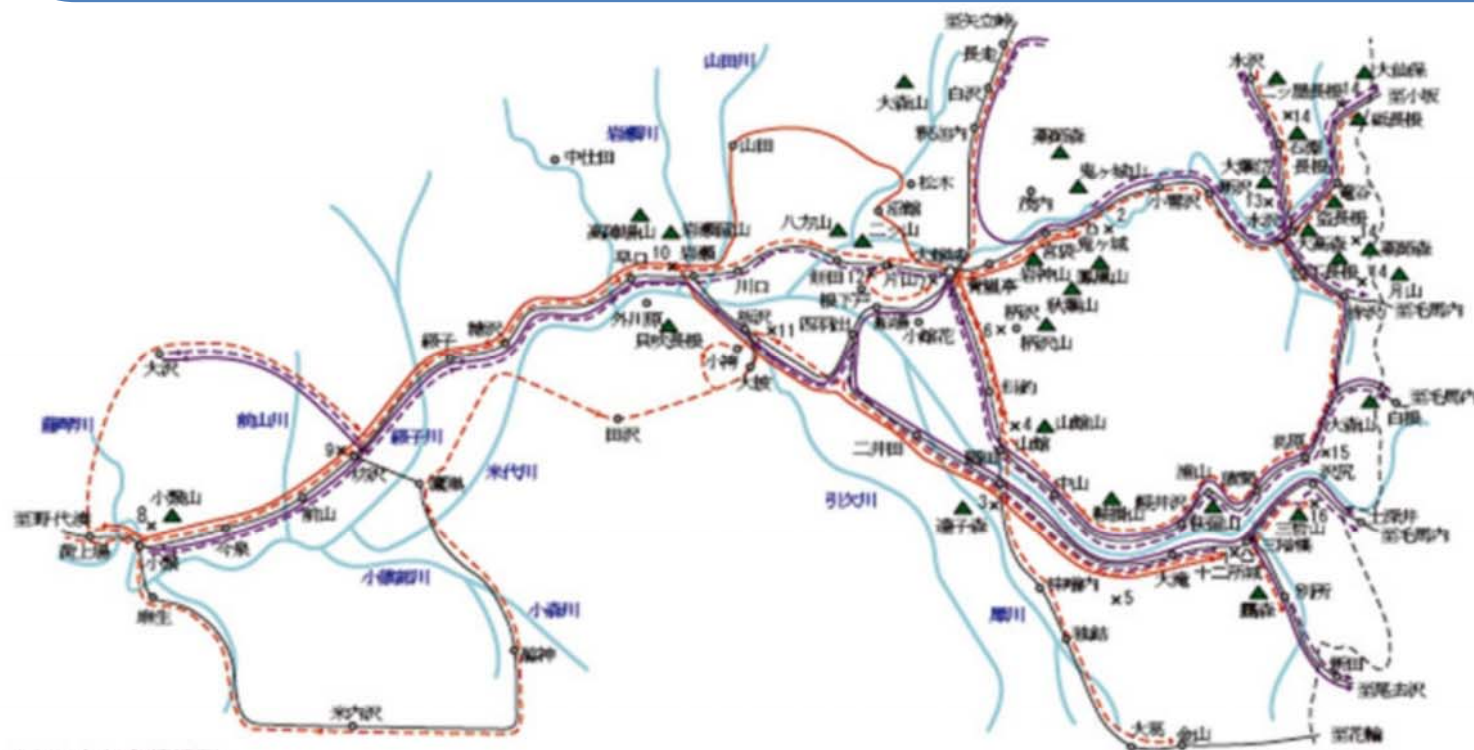
大館の歴史 ～近代①～

ぼしん 戊辰戦争

けいおう 慶応4年(1868)1月、戊辰戦争が勃発し、東北地方も戦禍に巻き込まれました。

おうえつれっばんどうめい りだつ 奥羽越列藩同盟を離脱した久保田藩に対し、8月9日南部藩が宣戦布告し、大館地方も戦場となりました。南部藩は鹿角街道口などから攻め入り、圧倒的な兵力の差により、十二所の茂木軍、大館の佐竹軍は敗れました。8月22日、大館城はらくじょう 落城し、大館・扇田・十二所の町はかいじん き 灰燼に帰してしまいました。

えんじょ 新政府軍の援助を受け、9月6日大館城をだっかん 奪還するも、この戦争によって多大な損害をそんがい こうむ 被りました。



× おもな会戦場所

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 十二所城・三哲山戦 | 9. 坊沢戦 |
| 2. 鬼ヶ城戦 | 10. 岩瀬戦 |
| 3. 扇田戦 | 11. 板沢戦 |
| 4. 山館戦 | 12. 餅田・片山戦 |
| 5. 善知島坂戦 | 13. 大葉岱戦 |
| 6. 山王岱戦 | 14. 雪沢諸口戦 |
| 7. 大館城 | 15. 葛原戦 |
| 8. 小紫戦 | 16. 沢尻戦 |

- 佐竹大和・茂木筑後軍退却経路
- - - 佐竹大和・茂木筑後軍及連合軍経路
- 南部藩横山佐渡軍及諸隊進攻経路
- - - 南部藩横山佐渡軍及諸隊退却経路



陶丸 (トウガン)

直径 2.3×2.4(cm)

ほうおうざん 鳳凰山の下、ぎょくりんじあと 玉林寺跡から出土した戊辰戦争時の弾。発射の際の火薬による焦げがみられる。

榴弾 (リュウダン)

たんけい 短径3.7×長径8.7×高さ18.0(cm)
重さ 4.3kg

昭和25年頃、桂城公園の「お堀」再生事業として行われた泥上げ作業の際に発見された。

弾は幕末時、ざくろだん 柘榴弾・さくれつだん 炸裂弾と呼ばれていた種類のもので、使用されたけいせき 形跡がなく、戊辰戦争中に何らかの事情によりはき 破棄された可能性が高い。



戊辰戦争関係要略図

大館郷土博物館
Odate City Museum

大館の歴史 ～近代②～

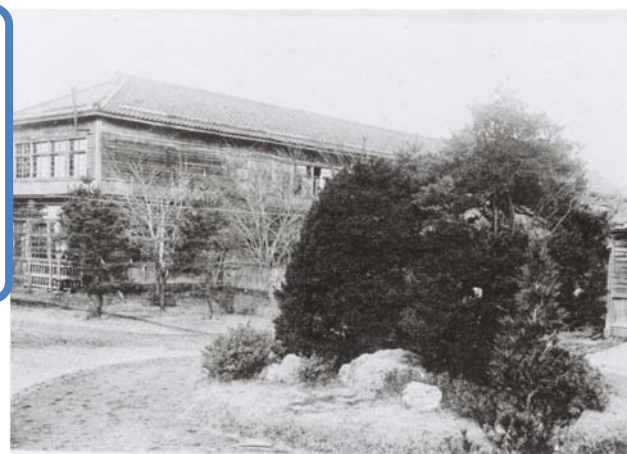
大館郷土博物館
Odate City Museum

写真で見る明治・大正

大町通り



大館中学校



北鹿ハリストス正教会

聖堂は秋田県指定文化財、また聖堂内にある山下りんの
聖像画(イコン) 19 点は大館市指定文化財となっています。
聖堂は明治 25 年、当時の信者が自邸内に建てたもので、
東京神田ニコライ堂の建築を手がけた大工が関わっていま
す。秋田杉を巧みに加工して作られた木造建築の教会として
貴重なものです。

大館女子小学校



公立大館病院



昭和 20 年代の
北鹿ハリストス正教会

修復された
北鹿ハリストス正教会

大館駅鉄道開通



聖像画(イコン)
【大館市指定文化財】
※宗教法人北鹿ハリストス
正教会蔵

大館の歴史 ～戦争～

大館郷土博物館
Odate City Museum

出征風景



出征風景

花岡ものがたり

もともとは花岡事件を題材にした連作版画物語詩『花岡ものがたり』で、昭和 26 年(1951)に出版されたものです。平成 12 年(2000)にその原版本全 57 点が大館に里帰りし、その時新たに刷^すられたもののうち一組が博物館に寄贈されました。



大館町公会堂



昭和 3 年(1928)に建てられ、町の社会事業や文化拠点^{きょてん}として活用されてきましたが、終戦直後進駐軍^{しんちゅうぐん}により宿舍兼事務所として接收されました。昭和 35 年(1960), 老朽化^{ろうきゅうか}のため解体されました。



大館の歴史 ～現代～

大火

市制施行後の昭和 28 年 4 月 29 日に官庁街^{かんちょうがい}一帯，昭和 30 年 5 月 3 日に大館駅前，昭和 31 年 8 月 18 日に東大館駅前から中心商店街，昭和 43 年 10 月 12 日に御成町二丁目一帯を消失する 4 度の大火にあいました。その消失面積は 238,000 平方メートルに及び，膨大な損害を被^{こうむ}りました。

昭和 28 年 大館駅を出発する
第 1 回山田記念マラソン



昭和 30 年 大館市御成町一丁目大火跡



昭和 31 年 大館大火 常盤木町上空から



昭和 31 年 大館大火
大町から末広町方面



昭和 31 年 大館火災



昭和 31 年 復興の進む大町通り



山田敬蔵マラソン人生
三〇万キロ走破記念トロフィー

大館郷土博物館
Odate City Museum